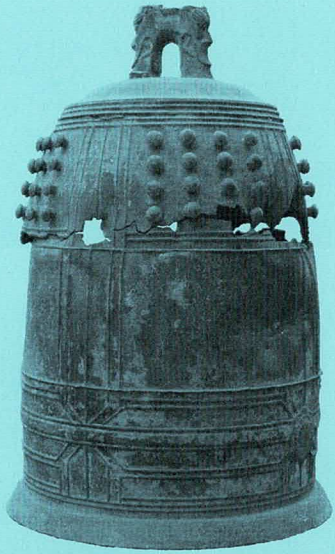


新潟県文化財

梵鐘 汐路の鐘



昭和51年3月 指定  
高さ1メートル7センチ、横径68.4センチ、約2/3高で上下に割れている。この鐘は白山権現の別当能生山泰平寺の鐘で、明応8(1499)年に能登国中居浦(穴水町)で造られた。  
芭蕉が門人曾良と共に奥の細道行脚の途次、元禄2(1689)年7月11日(陽暦8月25日)能生の旅宿玉や五良兵衛で泊まり、詠んだ句を刻んだ「汐路の名鐘」碑と「花本大明神」碑が境内にある。

曙や 霧にうつまく かねの聲  
芭蕉

新潟県文化財

木造 泰澄大師坐像



昭和56年3月 指定  
像高64.5センチメートル。  
加賀白山の開創と伝えられる泰澄の像で後頭部内割面に大永4(1524)年の墨書がある。像はその頃の肖像彫刻に共通する木寄法に則って造られている。

新潟県文化財

舞楽面

昭和56年3月 指定



陵王

納曾利

能抜頭

陵王 2面

古面は檜材で裏には寛正6(1465)年の朱漆銘がある。顎は吊顎であるが、眼は動眼でなく共彫である。他の一面も材質は檜でやや小型であるが動眼、吊顎の伝統的構造である。彫刻に共通する木寄法に則って造られている。

納曾利 2面

桐材製で二面は同作、両眼は別製で顎は共彫、頬や顎がやや張った感じである。

能抜頭 1面

材質は樟、黒漆地朱漆彩で簡略な彫りて、瞋目して口を結び鼻の尖る表情をあらわしている。

糸魚川市文化財

能生白山神社神仏像群四十三軀  
八稜鏡・円鏡

紺紙金字大般若経 般若波羅密多経 卷第357

朱印状 徳川3代將軍家光他11通

棟札 文亀3(1503)年 劔社造立

拝殿 切妻造り茅葺 宝暦5(1755)年 講堂と称した

宝剣 「宇多三郎兵衛国宗 文安三年五月十三日」の銘あり

火打山山頂出土仏像1軀(懸仏) 鏡板背面に「能生白山神社御正体 文永五年六月〇日 勅進僧實意」の銘あり

木造 不動明王立像



昭和47年5月 指定

像高94センチメートル。

藤原時代末 一木造

大日如来の化身である不動明王の憤怒の表情は、衆生教化の慈悲心と強い意志を表している。平安期末の様式を留めた尊像である。

損傷が激しいため、平成21年修復を行った。樹脂で虫食い穴を埋め、左足を接着した。修復時に材質がトチノキであることが分かった。

能生白山神社の文化財



重文 三間社流造りの本殿

能生白山神社の由緒

能生の白山神社は崇神天皇の11年11月の鎮座と伝えられている。また一説には文武天皇の大宝2(702)年とも言われ、能生郷草創以来の奴奈川神社であったが、奈良時代に泰澄大師により仏像を併安して、白山大権現と改められた。

別当の能生山泰平寺は七堂伽藍、75の末社と50余坊があつて3000石を領したと伝えられる。戦国(上杉)時代、200貫の社領と宗徒22院を数えていたが堀氏により領地を没収された。慶長16(1611)年に大久保石見守より五十石の寄進がなされ、慶安元(1648)年徳川3代將軍家光以降、幕府より50石の朱印状が下附され隆盛した。明治維新の折、神仏分離がおこなわれて白山神社と改称された。祭神は伊佐奈岐命、奴奈川姫命、大国主命である。

能生白山神社文化財保存会

新潟県糸魚川市大字能生7239番地  
白山神社社務所 電話025(566)3465番

〈令和4年8月改定〉

## 重要文化財

### 木造 聖観音立像

明治39年旧国宝指定  
昭和25年8月重要文化財  
に指定替えとなる  
像高1メートル4センチ

平安後期の作で、桜材の一木  
造りである、内刳、素地。

虫害、腐朽により破損が甚だ  
しかったが、昭和28年に修理を  
行い両上腕以下の欠損部を除き  
破損部を補修、台座を新造した。

姿勢、服装、腰裳、顔、目、  
唇等は藤原時代の特徴をよく表  
している。



## 重要文化財

### 白山神社本殿

三間社流造り 向拝一間 柿葺  
附 棟札4枚  
昭和33年5月 指定

本殿は棟札・墨書等から永正12年(1515)の造立であり、文禄・寛  
永・貞享・元禄・文化・明治・大正・昭和年代の大小修理を経ているこ  
とが知られる。三間社の流造りで、前面に一間の向拝をつけ、流造りとし  
ては地方では珍しい規模の建造物である。

東側の軒の出が短く、又縁も省いて非対称形となっている。木割  
線型などの細部の形式はよく室町時代の特色を示し、和様を主体と  
した手法の中に組物に唐様肘木を使っているのが注目される。寛永  
に向拝海老虹梁が付け加えられ、更に貞享には桁以上の軒廻り及び  
小屋組・床・縁・高欄が一新され、同時に側廻建具装置も変更する  
等の大修理が行われた。昭和35年～36年にわたる解体修理では、  
身舎の円柱及びその上の組物は当初のまま保存された。

本殿のの指定に附属して永正12年・文禄5年・寛永8年・貞享  
5年の棟札4枚も重要文化財に指定されている。

## 重要無形民俗文化財

### 糸魚川・能生の舞楽

昭和55年1月 指定

長享2(1488)年、僧万里の日記「梅花無尽蔵」の中に当社に童舞  
のあったことが記されている。その始まりは永享年間(室町時代)と伝  
えられている。大阪四天王寺舞楽を習い伝えたもので、現在も毎年4月  
24日の大祭に奉納する。

〈曲目と舞人〉 児：稚児 大：大人

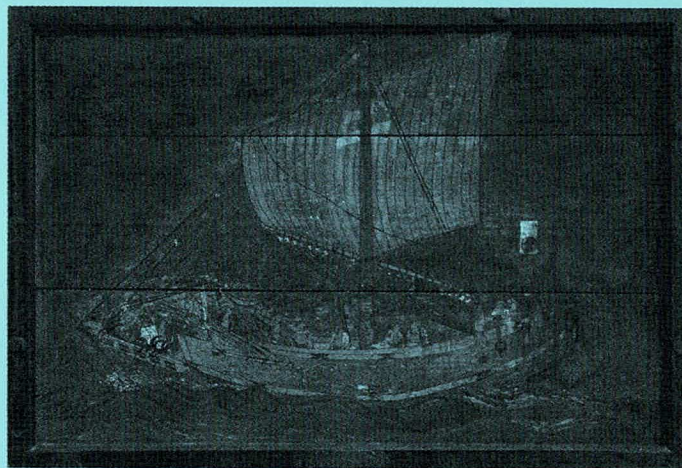
振舞児	2	候礼児	4	童羅利児	1
地久児	4	能抜頭大	1	泰平楽児	4
納曾利大	2	弓法楽児	4	児抜頭児	1
輪歌児	4	陵王大	1	獅子舞大	

神輿殿と併設の奏楽殿(楽屋)は平成4年4月新築された。

## 重要有形民俗文化財

### 能生白山神社の海上信仰資料

船絵馬93点 船額4点 昭和62年3月 指定



はがせ船図絵馬 明和3(1766)年 日本で唯一のはがせ船の絵馬

北前船の研究が盛んになり、拝殿に掲げられていた船絵馬が、幻  
の船と言われていた「はがせ船」の図柄であることが分かり、昭和  
44年に新潟県文化財に指定された。当社にはこの他にも多くの船絵  
馬が奉納されており、これらの絵馬は昭和21年以降数次にわたり調  
査されてきたが、更に昭和61年7月文化庁による調査の結果、これ  
らの絵馬は宝暦、明和年代から明治までの間に奉納されたもので、  
我が国に現存する船絵馬の中では極く古い年代のものが多く、海上  
信仰資料として貴重な絵馬であることが分かった。

平成2年から3年間にわたり、奈良・元興寺文化財研究所で修理  
がなされた。

## 天然記念物

### 白山神社社叢

昭和12年12月 指定

社叢は標高90メートル、面積約3.5ヘクタールあり、日本海に岬  
状に突出して海側は急崖となっている。

社叢内には暖地性と寒地性の樹種が混成し、越海岸地方の植物分  
布を示す稀な林相である。

樹種は暖帯常緑広葉樹が多く、ヤブツバキ、アカガシ、シロダモ・  
イヌグス等、落葉広葉樹にはケヤキ・ホノノキ・ミズナラ・エノキ等  
がある。特にヤブツバキ・アカガシの自然植生が見られ、また、隣接  
の杉林には、オオバノハチジョウシダ・フモトシダなどが自生し、これ  
らの暖地性シダ類は日本海側における自生地の北限である。

## 天然記念物

### 能生姫春蟬発生地

昭和17年10月 指定

ヒメハルゼミは本州から琉球列島に至る地域に分布しているが、  
本州では限られた地域にだけしか生息していない。

当社の社叢はわが国に於けるヒメハルゼミ発生の北限地である。

ヒメハルゼミは体長3センチメートル程の小さなセミで翅は透明  
である。発生期間は短く大体7月下旬である。鳴き方は集団的で音  
頭取と呼ばれるセミの鳴声に和して、全山セミが潮のおし寄せのよ  
うに一斉に鳴き、一斉に鳴き止む。鳴く期間は約3週間で寿命は短  
く6日間位である。シイやカシなどの樹液を吸い生息する。日本海側  
では当社の社叢の他は兵庫県城崎温泉周辺以外では確認されてい  
ない。

平成8年7月、環境庁公募「残したい日本の音風景100選」に  
認定された。

## 新潟県文化財

### 銅造 十一面観音立像

昭和56年3月 指定

像高35.5センチメートル

洗練された平安後  
期の様式を示す小銅  
像で、顔が小さく細身  
の体軀が、すんなりと  
伸びている。両手を  
失っているが平安後期  
の小金銅仏中の佳品  
としての価値を留めて  
いる。

